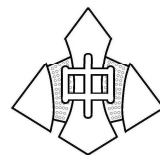


手をたずさえて

“KOHARADA WAY” 自分に打ちかて

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和2年5月15日(金) 発行
【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

生徒の姿と声が学校に戻る “分散登校”開始！

5月11日・12日の登校日を経て、5月14日(木)から、予定通り“分散登校”が始まりました。約1ヶ月ぶりに生徒の姿と声が学校に戻りました。生徒達は久しぶりの学校が嬉しそうで、笑顔もたくさん見られました。教室は生徒数が半分のため座席がまばらで、少しさびしい感じがしましたが、それぞれの学級で授業が行われ、生徒達は真剣に取り組んでいました。また、教室での座学だけでなく、保健体育科のストレッチや体ほぐし運動、家庭科のマスクづくり、美術科の屋外でのスケッチなど、実技や実習も行われていました。今の状況を踏まえ、先生方も工夫して授業づくりに努めています。いよいよ学校が動き始めたという感じです。「緊急事態宣言解除」等、世の中も動き出しましたが、自粛から解放されたわけではありません。決して気を緩めることなく、感染症対策にはしっかり取り組んでいきましょう。



温かいご支援をいただきました！

新型コロナウイルス感染症対策として、消毒作業は重要なものです。学校でも定期的に先生方が手分けして消毒作業を行います。その消毒液が不足している状況の中、ウイルス除菌にとっても効果がある次亜塩素酸水の素を、学区内にある「脂肪冷却サロン Resultat(リジュタ) 郡山店」様からご寄附いただきました。

5月12日(火)に、「脂肪冷却サロンResultat 郡山店」の代表の方が来校され、本校の全生徒・教職員・学校の分の次亜塩素酸水の素をいただきました。これからの未来を担う子どもたちが、安心して学校生活を過ごしてほしいという願いが込められたものです。生徒一人一人に手渡せるよう小分けにして封筒に入れた次亜塩素酸水の粉、そして説明書も添えてあります。粉を計量しビニール袋に入れ、さらに封筒に入れるという作業は、大変な労力だったと思います。そして、何よりも我々が本当に今必要としているものをいただくことに深く感謝申し上げます。生徒には学校再開後に説明を加えながら配付します。大切に使用させていただきます。本当にありがとうございました。



たくさんの次亜塩素酸の素が届けられました！

君たち3年生の力で小原田中の日常を取り戻してほしい！

ホームページでも紹介した5月11日の登校日で、学年主任の結城先生が3年生に向けて読み上げた手紙文です。3年生へのとても温かい想い、そして願いが込められた手紙でした。



3年生のみなさんへ

休校中、君たちはめまぐるしくかわる状況のなか、戸惑いながらの日々を過ごしてきたと思います。はじめは時間を自由に使えると喜んでいたり、孤独感や友人と会えない寂しさ、自由に出歩けないことで抱えきれない大きなストレスを感じていることでしょう。テレビをつければ、連日コロナ。大人たちは、こうすればいい、ああすればいい、責任はだれにある、学力が低下してしまう、9月入学にすべきなどと、君たちを置き去りにした議論を繰り返しているばかりです。確かに学力の格差・低下は大きな問題かもしれませんが、君たちにとってとても残念なのは、友だちとの日常がうばわれていること、楽しみにしていた、目標にしていた様々な行事がなくなってしまったことだと思います。本来なら今は修学旅行を終え、思い出話に花を咲かせながら、中体連に向けて部活動を頑張っている時期ですが、その中体連も中止となり、言葉では言い表せないほどの悔しさや悲しさ、やり場のない怒りを感じたと思います。おそらく君たちと同じ思いをしている中学3年生は日本中にいるはずです。

人生100年と言われていますが、中学3年生にとっての1年は人生の中でもとても大切でかけがえのない1年ということはいくらもわかっています。学校が再開した後も、例年通り、すべての行事ができるとは約束できませんし、授業の形態も変わってきます。もしかすると、また休校が繰り返されるかもしれません。

「君たちの気持ちはよく分かる」なんて言葉は、先生たちは言えないし、この登校日に君たちにどんな言葉かけるべきか考えましたが、正直、君たちの心を癒やすような気の利いた言葉が見つかりませんでした。ただ、君たちには残りの中学校生活をがっかりした、暗い気持ちで過ごしてほしくないのです。

まもなく学校が再開されます。この騒ぎが収まれば、きっと平凡な日常が戻ってきます。もしかすると友人たちとの平凡な日常を繰り返すことしか君たちの気持ちを癒やすことができないのかもしれませんが、友達とじゃれあったり、馬鹿話をしたり、時にはけんかをしたり、平凡な日常を重ねて少しずつ君たちらしさを取り戻してほしいと思います。

これまで我慢の連続だった君たちには酷ですが、学校が再開しても、思い通りにならないことや悲しいことがたくさんあると思います。でも、決して投げやりならず、自分を大切にしてください。そして、から元気でもいいので、友だちや後輩たちに笑顔を見せてほしいと思います。学校を作っていくのは3年生。君たち3年生の力で小原田中の日常を取り戻していきましょう。先生たちは君たちを頼りにしています。

これまで我慢の連続だった君たちには酷ですが、学校が再開しても、思い通りにならないことや悲しいことがたくさんあると思います。でも、決して投げやりならず、自分を大切にしてください。そして、から元気でもいいので、友だちや後輩たちに笑顔を見せてほしいと思います。学校を作っていくのは3年生。君たち3年生の力で小原田中の日常を取り戻していきましょう。先生たちは君たちを頼りにしています。

令和2年5月11日

小原田中学校3学年スタッフ一同



学校生活に“潤い”を…！

結城先生の手紙文を聞いて、せつなさの中にも、ふっと気持ちが軽くなった3年生も少なくなかったと思います。“学校の存在意義”を考えれば、学校再開後の様々な制限の中での生活でも、何か気持ちが安らいだり、温かくなったりする場面が少しでも生まれるよう、我々教職員も知恵と工夫を結集させ、できる限りのことをしていきたいと考えています。少しずつでもいいから、“潤い”のある学校生活が実現できればと願うばかりです。生徒のみんなにも、生徒会活動等において、「こんなことをすれば、学校生活に“潤い”が生まれるのでは」といったアイデアがあれば、どんどん出して、実行してほしいと思います。

